

2017（平成29）年度

梅光学院中学校・高等学校
学校評価書

梅光学院中学校・高等学校

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	中学1年
責任者名	林 武

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	<u>基本的生活習慣の確立</u> ・ 明るく元気な挨拶の徹底 ・ 無遅刻、予鈴着席の徹底 ・ 提出物の期限厳守	・ 団体行動での指導と実践の徹底 ・ タイムスケジュールの確認 ・ 未提出者の有無の確認と徹底した追跡と請求	A: 目標以上 B: 目標に見合う C: 目標に及ばない	B	B
②	<u>学習習慣・家庭学習の確立</u> ・ 予習と復習の習慣化 ・ 定期試験の計画と反省 ・ 学習記録の入力の徹底	・ 課題の把握と終礼時の確認 ・ 試験の学習計画と学習記録の入力の呼びかけ ・ 通知票の活用	・ 学習記録の入力100%に近づける A: 目標以上 B: 目標に見合う C: 目標に及ばない	A	B
③	<u>家庭との連携強化</u> ・ 学習指導や生徒指導を問わず、学校と家庭が協力して指導する意識の高揚 ・ 学年便りとクラス便りの充実	・ 学年会や日常で、連絡報告相談を行い、横連携の情報共有と協働を図ること ・ 学年便り等を通じて、保護者への情報発信をおこなう。 ・ 協力や信頼を築くためにタブレットの保護者向けメッセージの欄を活用する。	・ 学年会を通じて情報交換し、可能な限り即日解決を目指す。 ・ 学年便りは各学期に3回ずつ発行する。 A: 目標以上 B: 目標に見合う C: 目標に及ばない	A	B

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	中学2年
責任者名	河野 優子

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○明るく元気な挨拶の徹底 ○無遅刻、予鈴着席の徹底 ○提出物の期限厳守 	<ul style="list-style-type: none"> ○団体行動での指導の実践と徹底 ○100%に近づける ○提出の有無の徹底した追跡と請求 	B	B
②	学習ならびに生活環境の整備と充実	<ul style="list-style-type: none"> ○予習・授業・復習の学習サイクル習慣化 ○朝読書の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ○テスト計画と学習の記録での徹底した追跡指導を行う ○生徒自身が自己研鑽を可視化できるようにファイル化する 	B	B
③	家庭との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導・生徒指導を問わず、学校と家庭が協力して指導する意識の向上 ○学年便りの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年会や日常で、連絡報告相談を行い、横連携の情報共有と協働を図る ○各学期に3回は保護者へ情報発信を行う。また、協力や信頼をタブレットの保護者向けメッセージの欄で行う 	B	B

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	中学3年生
責任者名	能野則之

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	最高学年としての自覚に基づく、実践力の育成	①(美)生活環境の美化に努める。 ②(例)梅光生らしい身だしなみと言葉づかいを身につける。 ③(時)遅刻・始業着席等、規則正しい生活を心がける。	A; 80%の生徒が目標を十分に達成できている。 B; 50%の生徒が目標を概ね達成できている。 C; 50%を超える生徒が目標を達成できているとは言えない。	B	B
②	進路を見据えた学習習慣および学力の深化	①定期試験計画表を基にし、学習習慣の確立を図る。 ②教科担当との連携により、個々の学力に対応した個別指導を行う。 ③将来像を想定した具体的な進路を決定し、それに向けた学力の向上を図る。	A; 80%以上の生徒が個々の進路に向け、的確な学習活動を展開している。 B; 50%以上の生徒が個々の進路に向け、的確な学習活動を展開している。 C; 50%を超える生徒が的確な学習ができているとは言えない。	B	B
③	グローバル社会に対応できる魅力ある人づくりと確かな語学力	①探究を中心とし、日豪文化への理解を深める。 ②探究・演劇授業を中心とし、自己表現力を高める。 ③探究・英語授業等を通し、語学力を高める。	A; 80%以上の生徒に意欲の向上がみられる。 B; 50%以上の生徒に意欲の向上がみられる。 C; 50%を超える生徒に意欲の向上が見られない。	B	B

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	高 I
責任者名	山田 勇一

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	第1学年として、高校3年間の基礎を築かせ、充実した高校生活を送らせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年集団の中で、コミュニケーション能力を高め、お互いを理解する力をつけさせる。 ・学校行事への積極的な参加を促し、仲間意識と目的を達成するまでの努力の大切さを学ばせる。 ・共同作業としての掃除の意義を教え、掃除監督に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめなどのない学年になっているかどうか、定期的に意識調査を実施する。 ・学校行事への取り組みを観察する。 ・1人の怠慢が全体の迷惑になることを意識できている。 	B	B
②	大学進学を見据えた学習意識を	<ul style="list-style-type: none"> ・高校1学年のうちから入試調べ、大学調べを行わせる。 ・大学調べを定期的に行わせ、LHRなどでプレゼンテーションを行わせる。 ・目標を決めて公開模試に臨ませ、成績データを活用して弱点の克服に励ませる。 ・予習、復習を習慣づかせ、効率の良い学習法の確立に努めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試システムについて理解できているか。 ・希望する大学について、レベル・学部内容等十分に理解できているか。 ・自分に何が足りなくて、何をすべきかを把握できているか。 	B	B
③	自らの将来像を描かせ、学習の目的意識を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な職業を紹介し、自らの将来について真剣に考えさせる。 ・将来ビジョンを構築させて、そこにいたるために達成すべき課題を認識させる。 ・学習の目的を認識させて、学習に対するモチベーションを高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業への取り組みに真剣であるか。 ・自主的な家庭学習ができているか。 ・将来像に対する情熱が高まっているか。 	B	A

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	高Ⅱ
責任者名	林 久代

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	高校生としての生活習慣の見直しと自立をそくす。	①遅刻・欠席を減らす指導。 ②学校行事に積極的に参加し、協力する姿勢を養う。 ③修学旅行の学びを通してクラス、学年としての連帯感を持たせる。	A目標以上の成果を上げた B目標に見合う成果を上げた C目標に見合う成果に及ばなかった	B	B
②	家庭学習の量と質の見直し	①提出物の徹底。 ②自学・自習に取り組ませる。 ③模試を活用し、進路決定に向けた学習計画の実行。	A目標以上の成果を上げた B目標に見合う成果を上げた C目標に見合う成果に及ばなかった	B	B
③	適性に合った進路先を見つける	①進路ガイダンスの活用。 ②オープンスクールへの参加をすすめる。 ③タブレットを使い進路先をリサーチさせる。	A目標以上の成果を上げた B目標に見合う成果を上げた C目標に見合う成果に及ばなかった	B	A

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	高校Ⅲ年
責任者名	中塚 聖治

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	最終学年としての意識を高め、充実した学校生活を送る	<ul style="list-style-type: none"> ○学年の一員としての役割を意識し、学年というチーム意識を育てる。 ○学校行事に積極的に参加し、リーダーとしての指導的役割を果たす。 ○お互いに協力して物事に取り組む意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> A 目標以上の成果をあげた。 B 目標に見合う成果をあげた。 C 目標に見合う成果があがらなかった。 	B	A
②	進路を意識した個別指導により、個々の能力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○個人面談をきめ細かく行い、的確なアドバイスをすることによって能力の向上を図る。 ○模擬試験への積極的な取り組みを促し、データの有効活用を行う。 ○反復指導を行うことにより、指導の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> A 目標以上の成果をあげた。 B 目標に見合う成果をあげた。 C 目標に見合う成果があがらなかった。 	B	B
③	各自の将来をイメージし、それぞれの進路実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの進路への思いを高め、そのイメージの定着を図る。 ○希望する進路への実現を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> A 目標以上の成果をあげた。 B 目標に見合う成果をあげた。 C 目標に見合う成果があがらなかった。 	B	B

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	教務部
責任者名	一ノ瀬 俊三

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	学力向上を目指した授業改善の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○学期ごとに授業公開日を設定し、保護者から意見をもらうことにより授業力向上に役立てる。 ○学期ごとに生徒による授業評価を実施し、学校全体として授業改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公開授業時のアンケートにて良評価(A・B)の割合が85%以上 ○学期ごとの授業評価が1学期<2学期<3学期となるのうち、 A. 2つとも達成 B. 1つのみ達成 C. 未達成 	B	C
②	学校行事計画の適正な運営	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日の授業変更・試験運営など、日々の学校生活に支障が無いよう、確実に日程を調整する。 ○様々な事象に対応し、学校行事計画を適正に調整し、全職員への周知・徹底を確実にを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> A. 適正に調整・運営を行い、周知・徹底までできた。 B. 適正に行事運営ができた。 C. 適正に運営できなかった。 	B	B
③	文書処理・文書管理	<ul style="list-style-type: none"> ○出欠統計・成績管理などの点検を適正に行い、管理する。 ○諸調査に期限までに正しく回答を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> A. 全員で協力し、適正に行えた。 B. おおむね適正であった。 C. 適正に行えなかった。 	B	C

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	宗教
責任者名	黄 惠敬

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	・朝のチャペルでの礼拝とクラス礼拝を備えた心で忠実に捧げる。・水曜早天祈祷会に多くの有志を参加させる。	・毎日の礼拝を誠実に捧げるために担任と協力して生徒を指導する。・水曜早天祈祷会参加を勧めて祈りの力を体験させる。祈りの課題を書いて祈ってもらうことを実践する。	A: 目標以上の成果を上げた B: 目標に見合う成果を上げた C: 目標に見合う成果には及ばなかった	B	B
②	・備えられた年間の宗教行事を忠実にさせる。	オリエンテーション・キャンプ、花の日・収穫感謝礼拝、修養会、ツリー点灯式、クリスマス礼拝、卒業記念礼拝を誠実に捧げる。	A: 目標以上の成果を上げた B: 目標に見合う成果を上げた C: 目標に見合う成果には及ばなかった	B	B
③	・校外に向けての光の子として輝かせる機会を持たせる。	年間のみ言葉の「愛ときずな」を心に抱き、日本内での施設訪問や、海外でのWorld Vision応援、募金活動など誠実にやる。最善を尽くした綺麗なお花と、野菜・果物を準備するように励むことと、本当に生活に困っている人々と、勉強できない世界中の友達を真心で積極的に助けること。	A: 目標以上の成果を上げた B: 目標に見合う成果を上げた C: 目標に見合う成果には及ばなかった	B	B

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	生徒会
責任者名	廣田 薫

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	主体的活動による行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに運営委員会を結成し、生徒が主体的に動けるようにサポートする ・生徒総会による生徒の意見の反映 	A 目標以上の成果をあげた B 目標に見合う成果をあげた C 目標に見合う成果に及ばなかった	B	B
②	部活及びボランティア活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の奨励 ・外部での活動の奨励と環境整備 	A 目標以上の成果をあげた B 目標に見合う成果をあげた C 目標に見合う成果に及ばなかった	B	B
③	委員会活動の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会と各HRの委員活動のつながりを明確化 ・生徒自ら発信する委員会作り 	A 目標以上の成果をあげた B 目標に見合う成果をあげた C 目標に見合う成果に及ばなかった	B	C

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	広報
責任者名	重村 雄太

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	「広報組織力」の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・報・連・相を徹底する ・担当業務の確実な遂行をする ・意見、アイデアの共有をする ・学校経営を意識した教職員全員の士気向上をはかる 	年度末のアンケートにより A: 教員の70%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 B: 教員の50%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 C: 教員の30%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合	B	B
②	「情報発信力」の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・マスメディアやソーシャルメディアを利用して本校の教育内容を発信する ・生徒、保護者、教員などの協力を得て、本校のよさをアピールする ・ポスター、チラシ、パンフレットの作成に関わり、情報の精査を行う 	年度末のアンケートにより A: 生徒、保護者、教員の70%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 B: 生徒、保護者、教員の50%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 C: 生徒、保護者、教員の30%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合	B	B
③	「情報創造力」の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者の「認知」を得る活動をする ・生徒、保護者の「理解」を得る活動をする ・生徒、保護者の「共感」を得る活動をする 	年度末のアンケートにより A: 生徒、保護者、教員の70%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 B: 生徒、保護者、教員の50%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 C: 生徒、保護者、教員の30%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合	B	B

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	教育相談
責任者名	林 武

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	<u>校内支援の確立</u> 1. 校内支援の流れの作成 2. 年間計画の流れの作成 3. 教育相談コーディネーターの充足 4. 校内研修の実現	1. 校内支援の流れの作成 2. 年間計画の流れの作成 3. 教育相談コーディネーターの充足 4. 校内研修の実現	A:教育相談の支援に60%の生徒・保護者が満足している B:教育相談の支援に40%の生徒・保護者が満足している C:教育相談の支援に20%の生徒・保護者が満足している	B	B
②	<u>教育相談の充実</u> 1. 不登校への対応の体系化 2. フローチャートの作成と実施 3. 部会による情報と対応の継続 4. スクールカウンセラーによる外部支援の継続	1. 不登校への対応の体系化 2. フローチャートの作成と実施 3. 部会による情報と対応の継続 4. スクールカウンセラーによる外部支援の継続	A:教育相談の支援に60%の生徒・保護者が満足している B:教育相談の支援に40%の生徒・保護者が満足している C:教育相談の支援に20%の生徒・保護者が満足している	B	B
③	<u>特別支援の確立</u> 1. 特別支援の対応の体系化 2. フローチャートの作成と実施 3. 支援の実施と経過の観察 4. 発達心理士による外部支援の継続	1. 特別支援の対応の体系化 2. フローチャートの作成と実施 3. 支援の実施と経過の観察 4. 発達心理士による外部支援の継続	A:教育相談の支援に60%の生徒・保護者が満足している B:教育相談の支援に40%の生徒・保護者が満足している C:教育相談の支援に20%の生徒・保護者が満足している	B	B

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	生徒指導
責任者名	神谷 健

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	授業第一	<ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶ力」を伸ばす指導力の教員育成 ・生徒を集中させる指導力 ・授業の中で規律を学ばせる指導力(居眠り、私語) ・教員の意識改革 	A: 目標以上の成果を上げた。 B: 目標に見合う成果を上げた。 C: 目標に見合う成果に及ばなかった。	B	B
②	規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、欠席の少ないクラスづくり ・生徒に向き合う姿勢を ・平等に指導できる力量 	A: 目標以上の成果を上げた。 B: 目標に見合う成果を上げた。 C: 目標に見合う成果に及ばなかった。	B	B
③	「光の子」を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ・神から託された生徒という認識の下、大切に指導することを重んじること。 	A: 目標以上の成果を上げた。 B: 目標に見合う成果を上げた。 C: 目標に見合う成果に及ばなかった。	B	B

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	進路指導
責任者名	中川勝彦

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	高Ⅲ生徒の希望進路実現を支援する。	高Ⅲ生徒が進路志望を固め、希望進路に進めるように支援する。 支援方法は、高Ⅲ生対象の進路相談、課外授業、集中学習会、個別指導、小論文指導、面接・プレゼン指導等による。	高Ⅲ生徒の進路先に対する満足度調査、高Ⅲ生徒への支援に対するアンケート	B	B
②	希望進路実現に必要な学力を養成する。	全生徒を対象に希望進路実現に必要な学力養成をはかる。 方法は、全学年対象の効果的な課外授業の実施、効果的な模試や実力テストの実施と活用、小論文指導、面接指導等の充実、スタディーサブリの活用度改善。	模試の偏差値伸長度、スタディサポートによる学習生活状況、生徒による自己評価	B	C
③	進路意識高揚のための環境を整備する。	生徒が主体的に進むべき進路について深く考えられるための環境を整備する。 進路ガイダンス、講演会、研修会、自習室、進路資料室の改善を図る。	進路意識高揚のためのイベント、改善状況について一覧表を作り評価する	B	C

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	国際交流
責任者名	中川勝彦

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	生徒の海外研修への参加を支援する。	参加しやすく効果的な海外研修プログラムをなるべく多く導入する。 業者との連携をしっかりとる、細かな配慮をしながら時系列で準備計画を立て事前準備を行う。 効果的な説明会等を開き生徒の興味・関心を高め参加者を増やす。	導入プログラム数・参加人数調査。 参加者満足度調査、参加者の保護者満足度調査、業者との振り返り	B	B
②	外国人留学生、外国人訪問者との生徒の交流を支援する	外国人留学生や外国人訪問者が本校で生徒とともに有意義な経験ができるよう支援する。 業者や先方責任者と密に連絡を取り充実したプログラムを計画する。 問題が生じないよう、また生じた場合はすぐに対処ができるよう ホストファミリーやHR担任、授業担当と密な連携をとる。 外国人留学生が充実した学習生活を送れるよう学習支援を行う。 特に、日本語については別個に指導の機会を持ち効果的な指導を行う。	生徒への事後アンケート、 外国人留学生の日誌(レポート)提出、 外国人留学生、訪問者へのアンケート	B	B
③	生徒の国際性・異文化理解力を高める。	様々なイベントや学習会等を通して国際性と異文化理解を育む。 海外研修の事前研修、海外研修報告会などを企画し、海外での体験をより充実したものにする。 外国人留学生や外国人訪問者と本校生徒が交流できる場を設け、 生徒主体のおもてなしができる仕組みを構築する。	参加生徒へのアンケート、 オーディエンス生徒へのアンケート、 年度末のルーブリック調査	B	B

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	ICT教育推進部
責任者名	重村 雄太

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	生徒に「主体性」「協働性」「創造性」を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体性」を身につけさせるような場の提供と企画の考案 ・「協働性」を身につけさせるような場の提供と企画の考案 ・「創造力」を身につけさせるような場の提供と企画の考案 ・梅光に新しい価値をもたらす成果物の創造 	年度末のアンケートにより A：生徒、保護者、教員の70%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 B：生徒、保護者、教員の50%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 C：生徒、保護者、教員の30%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合	B	B
②	ICTを用いた授業の導入・定着と授業外でのICT活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業へのICT導入サポート ・教職員向けICT研修の実施 ・全教員のICT活用事例の把握 ・学校行事、部活動での活用イベントの企画 ・生徒、保護者、教職員への新しいICTツールの共有 	年度末のアンケートにより A：生徒、保護者、教員の70%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 B：生徒、保護者、教員の50%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 C：生徒、保護者、教員の30%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合	B	B
③	校内ICT環境の維持・整備	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内のICT機器の管理、メンテナンス ・教員が使用する機器の管理、メンテナンス ・各サービス、アプリのアカウント、パスワードの再発行の迅速化 ・生徒、保護者の質問対応と、ICTに関するトラブル対応 ・教員の質問対応と、ICTに関するトラブル対応 ・各種アンケート（授業評価、保護者アンケート）の実施 ・担当業務の確実な遂行 	年度末のアンケートにより A：生徒、保護者、教員の70%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 B：生徒、保護者、教員の50%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 C：生徒、保護者、教員の30%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合	B	B

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	図書部会
責任者名	松本 昭夫

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	<ul style="list-style-type: none"> ① 図書館の利用を促進する ② 課題図書を購入 ③ 課題図書を購入 ④ 読書感想文の準備 ⑤ 書庫の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度のデータ入力。 ・新年度の当番決め・・・先輩から後輩への貸し出しの指導 ・青少年読書感想文コンクール・・・国語科と連携スムーズに行えるように準備を進める ・新潮文庫・・・中学生の30冊、高校生の50冊 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書運営(特に貸し出しがスムーズに行えたか。 ・コンクールの出品がスムーズに行えたか ・中高生におすすめの30冊、50冊が紹介できたか。 	B	B
②	<ul style="list-style-type: none"> ① 読書家賞の告知ポスター貼り ② 読書感想文全国コンクール地区審査会〔中学高校〕 ③ おすすめ図書のポップ作成 ④ 中国地区学校図書館研究会 ⑤ 10月17日選書会 ⑥ 読書週間講演会 ⑦ 書庫の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ① 梅光祭の展示 ② 図書だよりの刊行 ③ 希望図書調査 ④ 読書週間の準備・・・図書委員会を中心に行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅光祭にふさわしい感じができたか ・図書館便りが刊行され、継続したか ・希望図書の調査を全校生徒を対象に行えたか。結果を発表できたか。 ・読書週間の準備を図書委員を中心に行えたか ・選書会がスムーズにおこなえたか 	C	C
③	<ul style="list-style-type: none"> ① 読書家賞の表彰式 ② おすすめ図書のポップ作成 ③ 事業報告 ④ 決算書提出 ⑤ 書庫の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ① 読書家賞の集計 ② 図書返却の督促 ③ 会計報告・帳簿の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書家賞の集計がスムーズに行えたか ・未返却の図書がないようにできたか ・ミスなく会計報告・帳簿の整理ができた 	B	B

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2017年度

部門名	研究・研修
責任者名	林 武

学校評価における部門評価					
	重点課題	具体的方策	達成基準	実行度	達成度
①	授業力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICTの導入 ○ 授業展開の工夫 ○ 他校のようすを参観し、取り入れる 	A: 目標以上 B: 目標に見合う C: 目標に及ばない	B	C
②	研修テーマを理解し、授業やクラス運営に役立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学んだことを的確に共有する場を設定する ○ 職員会議等での情報交換を活発にする 	A: 目標以上 B: 目標に見合う C: 目標に及ばない	B	B
③	公務分掌、教科、学年ごとに新任の教員を支える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分掌会、教科会、学年会で報告、相談、連絡を徹底させる 	A: 目標以上 B: 目標に見合う C: 目標に及ばない	B	C